

1. 無題

九州工学教育協会 副会長 (九州工業大学学長) 宮里達郎

私の場合、老後をいかに有意義に過ごすかという話しが多く出る年齢になり、思えば学部・大学院の学生時代を含め、大学という世界だけで40年という長い年月を過ごしたことに気が付き「愕然」とする。その「愕然」とする理由であるが、大学という世界は教育であれ研究であれ、この社会の大きな変化に比べ、その有り様は本質的にはそれほど変わっていないということにある。それが今日、大学、特に国立大学が大きくなうねりに翻弄されつつ、進むべき方向を定めることを求められたということにつながったのであろう。しかしこの間、何もしなかったかということ、さにあらず、大学は社会からずっと批判され続けつつ、なんとかせねばと思いつつ、今日に至っていること、でも本当は「何も出来なかった」とういことが実情であろう。

そのように考えるとき、大学にとって最も必要なことは、「自ら変革できる仕組み」を大学の中にどのように構築するかということであろう。このことは、個々の人間の生き方においても必要なことで、多くの先人達がすばらしい人生訓をたくさん残していることを見ても明らかである。そしてこのことは我が国の現状を見るにつけても然りである。国家は常に社会や世界の変化に敏感であらねばならず、的確な変革に遅れは禁物である。このようなことを考えていると、この文章の題目は「無題」ということになった。

2. 九工教の動き(平成12年6月～12月)と今後の予定

- 平成12年7月21日(金) 第1回理事会 (於 (株) 安川電機会議室)
平成11年度決算、平成12年度役員、事業計画、予算案が承認された。
当日は予定通り九大、博多駅から出発し、高速道路経由で黒崎にある (株) 安川電機に到着。まず施設を見学した後理事会を開催した。帰りに小倉城のすぐ近くにオープンした「松本清張記念館」を見学して、無事帰着した。
- 平成12年10月30日(月) 工学教育プログラム九州地区講演会 (於 九州大学工学部大講義室)
- 平成12年12月18日(月) 運営委員会予定
第3回九州工学教育協会賞受賞候補者の審議
- 平成13年1月9日(火) 第2回常任理事会予定
- 平成13年2月5日(月) 第2回理事会、総会、講演会および懇親会 (於 九州大学記念講堂) 予定
講演題目と講師は次の通りである。
「スイッチトキャパシタ電源の現状と将来」 熊本電波工業高等専門学校 教授 大田 一郎
「JABEE 認定を目指した新しい教育システムの試み」 鹿児島大学工学部機械工学科 教授 門 久義
九州電力株式会社総合研究所長 片山 修造

3. 工学教育プログラム九州地区講演会開催報告

工学教育プログラム実施検討委員会委員(九州大学大学院工学研究院・教授) 豊貞雅宏

大学の工学部で行っている教育が、国際的に通用する技術者教育プログラムとなっており、社会の要求基準を満たしたものであることを外部機関が公平に評価し、認定する制度の導入準備がなされています。これに対応して、我が国大学の工学部における工学教育の改革に向けた日本型コアリッションの構築とその成果の普及、ならびに具体的な教育ツール、カリキュラム、評価システム等に関する情報提供を目的として工学教育プログラム(JEEP)実施検討委員会が活動を続けています。この委員会主催の工学教育プログラム九州地区講演会が平成12年10月30日(月)九州大学工学部大講義室にて開催されました。

この教育を受けた卒業生に受験資格が与えられることになる日本技術者教育認定機構も平成12年10月に設立され、教育プログラムと日本技術者教育認定制度(JABEE)は切っても切れない関係にあることから、JEEPだけでなくJABEEについても第三部としてシンポジウムの形で九州地区で開催され

た。開催された目次は以下のとおりです。

- | | | | |
|-----|---|----------------------|--------------------------|
| I | 開会挨拶 | 九州大学大学院工学研究院長 | 梶山 千里 |
| II | 工学教育プログラムと評価制度 | 九州大学大学院工学研究院 | 教授 落合 英俊 |
| III | 第一部 | | |
| | ① 工学教育プログラム実施検討委員会の活動 | JEEP実施検討委員会委員長 | 名古屋大学大学院工学研究科 教授 架谷 昌信 |
| | ② 創成型科目と実施例 | 分科会主査 | 大阪大学大学院基礎工学研究科 教授 都倉 信樹 |
| | ③ アウトカムズ評価 (達成度判定) の可視化と具体的作業 | 分科会主査 | 東京工業大学大学院理工学研究部 教授 水谷 惟基 |
| | ④ 教育プログラムの可視化モデル | 分科会主査 | 北海道大学大学院工学研究科 教授 岸浪 建史 |
| | ⑤ 質疑応答 | | |
| IV | 第二部 | | |
| | ① 九州大学工学部物質科学工学科における創成型科目実施報告 | 九州大学大学院工学研究院 助教授 | 草壁 克己 |
| | ② 九州大学工学部エネルギー科学科における工学教育プログラム実施に向けての取り組み | 九州大学大学院工学研究院 | 教授 松村 晶 |
| | ③ 鹿児島大学工学部機械工学科における工学教育改革の事例報告 | 鹿児島大学工学部機械工学科 助教授 | 岡田 裕 |
| | ④ 質疑応答 | | |
| V | 第三部 (日本技術者教育認定制度シンポジウム) | | |
| | ① 技術士制度の改善と技術者資格の国際相互承認について | 科学技術庁科学技術振興局科学技術情報課長 | 土屋 定之 |
| | ② 技術者教育認定制度の概要と今後の進め方 | 大阪大学大学院工学研究科 | 教授 大中 逸雄 |
| | ③ 質疑応答 | | |
| VI | 開会挨拶 | 九州大学大学院工学研究院 | 教授 中武 一明 |

210名(内97名九大関係者)という多数の参加者があり、関心の大きさに改めて、関係者の一人として、身の引き締まる思いをした。梶山九大工学部長の挨拶に引き続き、JEEPとJABEEを混同される方が多いので、その解説をしていただいた後、第I部として、JEEP実施検討委員会の活動報告が、同委員長ならびに分科会主査の先生方よりなされた。質疑応答では、ゆとり教育と称して、大学入学までの教育レベルを低下させておきながら、質・量ともに、大学卒業時には世界のトップを要求することはおかしいとの意見と、文部省への是正をJEEP実施検討委員会から働きかけていただきたいなどの要望が、聴衆者から出されるなど、活発な議論が行われた。

九州地区における活動報告では、教育プログラムそのものが、専門性があるため、学部全体としてJEEPに取り組むことが難しいために、現在は学科、あるいは系単位でJEEPの試行が行われており、その実状が第II部で報告された。創生科目の試行では先生の負担は非常に大きいものの、教育効果は学生・教官とも非常にあると考えていることが報告され、学生の反応や、教官からの要望などについての討論が活発に行われた。

第III部では、JABEEが学位認定機構の先生方とほぼ同じ顔ぶれで認証業務にあたることになること、学位認定機構がJEEPの認定を行うことがほぼ決定し、各大学のJEEPはそれぞれ独自性を出してもらう必要があることなどが報告された。

終了後、九大ファカルティクラブに場所を移し、懇親会を開催し、情報交換が活発に行われた。

4. 日工教第48回定時総会・年次大会・講演会(名古屋市)報告

平成12年7月18日(火)~20日(木)、日工教第48回年次大会が東海工学教育協会の担当で名古屋逓信会館において開催された。参加者は約400名であった。詳細は、「工学教育」9月号、11月号を参照して下さい。

第1日目：総会、年次大会、開会式、表彰式および特別講演Ⅰ、懇親会
九工教関係の表彰者は次の通りでした。

平成11年度工学教育賞

熊本大学助教授 秋山 秀典

「工学教育における学生実験システムの改革」

平成11年度日本工学教育協会賞(著作賞)

福岡工業大学助教授 柴田 望洋

「わかりやすいC言語教科書・参考書の執筆への貢献」

第2日目：工学・工業教育研究講演会(98件)、今までのセッションに加えて、「創成教育」のセッションが設けられた。

第3日目：調査研究報告、特別講演Ⅱ、シンポジウム「次世代産業社会における工学教育と産学連携」

来年の第49回年次大会は、東北工学教育協会の担当で、仙台市にて同時期に開催される予定である。第2日目の講演会への多数の論文発表をお願いします。

5. 日工教・総務・財務委員会報告

九州大学大学院工学研究院・教授 中武一明

本委員会は、昨年度までの総務委員会と財務委員会が統合されて、今年度から発足したものである。日工教の業務委員会の中に8つの委員会があるが、本委員会が全体の中核的な委員会であるとも言える。全体を扱っていることと財務を担当しているのがその理由である。年に3～4回開催されるが、第1回の委員会が、10月20日(金)に開催された。通常の運営関係の他に、次のことが報告要請された。

- ・平成14年(2002年)に、日工教の創立50周年記念事業を計画している。
- ・平成16年(2004年)5月に、第9回技術者継続教育国際会議(WCCEE)が、東京の日本大学を主催校にして開催されることが決定した。日工教(国際委員会)が支援する。
- ・JABEE(日本技術者教育認定機構)が昨年11月に発足し、平成12年度に20校を対象にして審査試行が実施されている。4月に改正された「技術士法」も含めて、国際的に通用する「技術者教育認定制度」の最近の情勢について、各地区の産業界、工学教育界の関係者を対象にして、全国8ヶ所の各地区工学教育協会が主催した「技術者教育プログラム認定制度シンポジウム」が、9月から10月にかけて開催された。全体で1,300名近い参加があり、関心の高さが感じられた。テキスト(約200頁、1,000円)を増刷したので、希望者は日工教に申込んで欲しい。
- ・日工教の企業会員と維持会員が減少し続けている。未加入の大学・高専にも加入を呼びかけて欲しい。

6. あとがき

九工教ニュース No.7 をお届けします。今回ご寄稿頂きました、宮里達郎副会長、豊貞雅宏先生に心からお礼申し上げます。来年2月5日(月)は、九工教の総会、講演会、懇親会(無料)には、多数のご参加をお待ちしております。

(文責 常務理事 中武 一明)

TEL: 092-642-3693

FAX: 092-642-3719

E-mail: nakatake@nams.kyushu-u.ac.jp

九工教ニュースへのご投稿をお願い致します。内容は工学教育、企業内教育などに関するもので、皆様にお知らせしたい事なら何でも結構です。手書き文書、FAX、E-mailのいずれにても受け付けます。ただし0.5～1頁ぐらいにおまとめ下さい。